

JP-U-58-170882

A casing for containing telephone-maintenance components therein is disclosed. As shown in FIG. 2, the casing is composed of a case 2 and a case cover 3, both made of synthetic resin. The case cover 3 includes a peripheral fringe 3b that is bent toward the case 2. The casing is attached to an outside wall of a house. The peripheral fringe 3b prevents water from entering into the casing.

5928

(1)

公開実用 昭和58—170882

⑨ 日本国特許庁 (JP)

①実用新案出願公開

② 公開実用新案公報 (U)

昭58—170882

⑤Int. Cl.²
H 05 K 5/06
B 65 D 43/16

識別記号
厅内整理番号
6679-5D
6247-3E

④公開 昭和58年(1983)11月15日

審査請求 有

(全 頁)

⑥集合保安器収容箱

⑦考 案 者 沢井太吉

東京都港区芝1丁目8番19号

⑧実 願 昭57-67757

⑨考 案 者 高橋靖夫

東京都港区芝1丁目8番19号

⑩出 願 昭57(1982)5月10日

⑪考 案 者 吉田哲夫

⑫出 願 人 日本電信電話公社

東京都千代田区内幸町1丁目1
番6号日本電信電話公社内

⑬出 願 人 株式会社白山製作所

東京都港区芝1丁目8番19号

⑭考 案 者 大沼喜代吉

⑮代 理 人 弁理士 中畠孝

東京都港区芝1丁目8番19号



明細書

1. 考案の名称

集合保安器収容箱

2. 実用新案登録請求の範囲

合成樹脂製収容箱本体2と、該収容箱本体2に蝶番5にて開閉可に取付けられた合成樹脂製蓋体3と、上記収容箱本体の内底部に設けられた保安器取付用の木質板4とから成る集合保安器収容箱において、上記収容箱本体2の周囲側板2bの上端に雨止め鋸8を側方へ向け張り出させ、該雨止め鋸8を上記蓋体3の周囲側板3bの内面側へ嵌め合い構造とすると共に、該雨止め鋸8の内周縁に回り縁10を立上げ、同様に上記蓋体3の周囲側板3bの内側に回り縁11を立上げ、該蓋体側回り縁11を上記収容箱本体側回り縁10の内面側へ嵌め合い構造とし、更に上記収容箱本体2の側板2b上端には蝶座12を形成し、該蝶座12の内側縁を囲むように回り縁部分10aを連設させると共に、該蝶座12に隣接する上記雨止め鋸の縁に回り縁部分10aへ連なる雨止め堰13を立

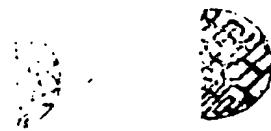
公開実用 昭和 58—170882



上げ、該雨止め堰 13 と上記回り縁部分 10a と
蝶座 12 にて蝶番据え付け部 14 を画成し、同
様に蓋体 3 の側板 3b と回り縁 11 間の嵌め合い
溝 15 底壁にて上記蝶座 12 と対となる蝶座 16
を形成し、該蝶座 16 の内側縁を囲むように回り
縁部分 11a を連設させ、該回り縁部分 11a と
上記側板 3b と蝶座 16 にて蝶番据え付け部 18
を画成し、他方 L形の小連結板 5a と L形の大連
結板 5b とから成る蝶番 5 を形成し、該 L形の小
連結板自由端の折曲葉板部 5a' を上記収容箱本体側
の蝶番据え付け部 14 にその内面側を以つて嵌着
して蝶座 12 に取付けし、同様に大連結板 5b 自
由端の折曲葉板部 5b' を上記蓋体 3 側の蝶番据え
付け部 18 にその外面側を以つて嵌着して蝶座 16
に取付けし、以つて収容箱本体 2 と蓋体 3 とを開閉
可に連結したことを特徴とする電話加入者用集合保安
器収容箱。

3. 考案の詳細を説明

本考案は電話加入者宅の建物外壁に備え付けられる
集合保安器収容箱に関する。従来、実開昭 52-127848 で知ら



れている集合保安器収容箱は収容箱全体を合成樹脂で構成して耐水性~~耐蝕性~~を具備させると共に、内部に木質製取付板を使用して保安器個々を釘打ちにて取付けできるようにしたものである。

本考案は基本構造として上記構成を具備させながら、その母体たる収容箱本体の開閉機構及びその水密機構等の点について改善を加えたものであり、図面はその一実施例を示す。図に示すように、本保安器収容箱1は合成樹脂製収容箱本体2と、該収容箱本体2に兼番5にて開閉可に取付けられた合成樹脂製蓋体3と、収容箱本体2の内底部に設けられた保安器取付用の木質板4とから成る。木質板4はその下面を収容箱本体2の底板2aから突成された複数の取付孔付の突座6へ床高に支え付けすると共に、その周囲側面を本体2の周囲側板2bの内面から突設された複数の間隔形成リブ7にて支え、底板2aと側板2bの双方から離間する。

収容箱本体2の周囲側板2bの上端に雨止め鉢8を側方へ向け張り出させ、該雨止め鉢8を蓋体

公開実用 昭和 58—170882



3の周囲側板3 bの内面側へ嵌め合い構造とし、該嵌め合いで外部に露出状態となる雨止め鋸8の背面、即ち、側板2 bの外面と連なる雨止め鋸8の面にその長手に亘つて雨返し溝9を設けると共に、該蓋体側板3 bの外面側端縁に雨止めリブ17を外側方へ向け突成した。

実施例は雨返し溝9と雨止めリブ17の併用を、収容箱1の建物外壁への取付け時に上下になる側板2 b, 3 bにおいてのみ行なつた場合を示す。

更に、収容箱本体2の雨止め鋸8の内周縁に回り縁10を立上げ、同様に蓋体2の周囲側板2 bの内側に回り縁11を立上げ、上記本体側回り縁10の内面側へ嵌め合い構造とする。蓋体3を取付ける収容箱本体2の側板2 b上端には蝶座12を形成し、該蝶座12の外側縁を側板2 bの外面より若干突出させ、該蝶座12の内側縁を囲むように回り縁部分10 aを連設させると共に、蝶座に隣接する雨止め鋸8の縁に上記回り縁部分10 aに連なる雨止め堰13を立上げ、該堰13と上記回り縁部分10 aと蝶座12にて蝶番据え付け部



14を画成する。

他方蓋体3の側板3bと回り縁11間に形成された嵌め合い溝15の底壁にて、上記蝶座12と対となる蝶座16を形成し、回り縁部分11aを該蝶座16の内側縁を囲むように連設させ、該回り縁部分11aと側板3bと蝶座16にて蝶番据え付け部18を画成する。

オ6図は蝶番据え付け部14と18に取り付けられる蝶番を示している。蝶番5は収容箱本体2と連結されるL形の小連結板5aと蓋体3と連結されるL形の大連結板5bとから成る。小連結板5aと大連結板5bとは夫々同方向にL形となされ、枢軸5cにて連結されている。

オ4図、オ7図は蝶番5の取付状態を示している。図示のように小連結板5a自由端の折曲葉板部5a'を上記収容箱本体側の蝶番据え付け部14にてその内面側を以つて嵌着し、その蝶座12にて充てねじ止する。

同様に大連結板5b自由端の折曲葉板部5b'をその外面側を以つて上記蓋体3側の蝶番据え付け部

公開実用 昭和58—170882

18に嵌着し、その蝶座16に充がいねじ止する。大連結板5bのヒンジ板部5b'は蓋体2の側板3bに添接されつつ、側板端部を乗り超えて枢軸部5cに連結され、又小連結板5aのヒンジ板部5a'は蝶座12の外側面に添接されつつ、これを抱き込むようにして枢軸部5cに連結される。

斯くして収容箱本体2と蓋体3とが開閉可に連結される。他方蝶番取付部の側板2bと対向する収容箱本体2の側板2bにはその上端雨止め鍔8へ取付孔を備えた締付座金19を抱着させ、これと対応する蓋体3の自由端の嵌め合せ溝15部に位置させて締付ねじ20を取付け、該締付ねじ20を上記締付座金19にねじ込み締付けすることによつて閉蓋状態をロックする。この締付座金19の場合も、蝶番の場合と同様に回り縁部分11bと堰22と鍔8にて座金据え付部23を画成する。締付ねじ20の場合はその取付位置が回り縁11と側板3b間に形成された嵌め合せ溝15部分であれば良い。21は屋外線と屋内線を導出入するための導線孔であり、該導線孔21は収容箱1を



外壁へ据付けた時に上下となる側板 2 b に切欠開
穿する。

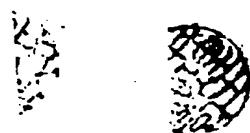
即ち、収容箱 1 は蝶番と締付座金を配した側板
2 b が左右となるよう取付ける。木質板 4 を支
え付けする突座 6 の外側、即ち間隔形成リブ 7 に
て形成された木質板 4 周囲の間隔に位置するよう
に隔膜を有する取付孔 2 2 を備え、該取付孔 2 2
へ隔膜を突き破りながら釘類を打設することによ
つて壁面取付けを図る。取付孔 2 2 と突座 6 は共
に、底板 2 a の背面で据え付け突座 2 4 を形成し
ている。

既述のように電話用保安器収容箱は屋外の壁面
に設置され、風雨に晒される機会が多い。

本考案はこれらの実情に鑑み、収容箱内への雨
水の侵入予防について改善を図ると共に、上記蝶
番部を中心とした開閉機構について、その水密性
を満足させつつ、組立て、使用上の構造改善を図
つたものである。

収容箱本体 2 の側板 2 b に設けた雨止め鋸 8 は
蓋体 3 の側板 3 b を超え外壁に当つて側板 3 b の

公開実用 昭和 58-170882



内側へ跳ね返つた雨水の大部分を遮断する。仮に強い風雨条件下で雨水が該雨止め鉢 8 の縁を超えて収容箱本体 2 の内側へ浸入した場合には蓋体 3 の回り縁 1 1 と収容箱本体 2 の回り縁 1 0との嵌め合い壁が保安器収容室周囲を囲んでいるので、これに完全に阻止され、雨水は回り縁 1 1 と側板 3 b 間で形成する嵌め合い溝 1 5 内を漏らすにとどまる。

同様の水密構造は蝶番機構部においても完全に保障される。既述のように蝶番 5 は大小二枚の U 形連結板 5 a, 5 b の対から成り、大連結板 5 b はそのヒンジ板部 5 b' が側板 3 b を乗り越えて枢軸部 5 c へ到らせることができ、蝶番取付部で蓋体側板 3 b が欠除されない。折曲葉板部 5 b' は回り縁 1 1 と側板 3 b 間の溝 1 5 内にあつて側板 3 b と回り縁 1 1 による雨水阻止作用を阻害することなく、蝶番取付けを図ることができる。

又折曲葉板部 5 a' を取付けた収容箱本体 2 側の蝶座 1 2 においても回り縁部分 1 0 a と該回り縁部分から雨止め鉢 8 の端縁へ連設した堰 1 3 によ





り雨水は最悪の場合でもこれらに囲まれた蝶番据え付け部 14 内に入るにとどまり、箱内への浸入及び鋸 8 を伝わつて据え付け部 14 へ浸入せんとする雨水を確実に防止する。従つてこれまで最も水密加工が難しいとされていた蝶番部における防水環状の問題がこれによつて効果的に解決できる。

又既述のように上記蝶番構造及びこれを取付ける上記蝶番据え付け部の構造は蝶番 5 の取付、蓋体 3 の組付けの作業を著しく容易にする。

即ち、既述のように蓋体 3 を開蓋した状態で蝶番の折曲蝶板部 5a' と 5b' が共に、据え付け部 14, 16 から露出され、両者はその上部空間が共に開放された状態におかれ、同状態でビス止め等を図ることができる。即ち、蝶番の取付けに際し、ドライバーの差し入れは開蓋状態で全て同方向から他の構造部に邪魔されない状態で行なうことができる、狭い間隙へ工具を差し込む不便さも解消される。更に蝶番の枢軸部は常に収容箱本体 2 の背面側へ近づくように位置させることができ、これによつて蓋体 3 を該枢軸 5c を支点として開

公開実用 昭和 58—170882

いた時、該枢軸 5 の位置によつて必然的に蓋体背面を外壁の面に当接させるように開かせることができるとなり、蝶番取付部へ開蓋時無用を負担をかけることがなくなる。従つて、保安器の補修、増設に伴なう蓋体開閉時等において、誤まつて開き過ぎて蝶番取付部を破損することもなくなり、大きな開角で開蓋できるから上記作業も非常にやり易くなつた。

4. 図面の簡単な説明

オ 1 図は本考案の実施例を示す集合保安器収容箱の外観図、オ 2 図は ^同A — A 線断面図、オ 3 図は同 B — B 線断面図、オ 4 図は開蓋状態を示す同外観図、オ 5 図 A 図は蝶番取付部の拡大斜面図、同 B 図はロック部の拡大斜面図、オ 6 図は蝶番外観図、オ 7 図は蝶番部の開閉状態を示す拡大断面図、オ 8 図は収容箱本体の平面図、オ 9 図は同側面図、オ 10 図は同背面図、オ 11 図は蓋体平面図、オ 12 図は同側面図、オ 13 図は同背面図である。

1 . . . 集合保安器収容箱、2 . . . 同収容箱



本体、3 . . . 同蓋体、4 . . . 木質板、5 . . .
・蝶番、5a . . . 同1形小連結板、5b . . .
同1形大連結板、5a' , 5b' . . . 折曲葉板部、
5a' , 5b' . . . ヒンジ板部、8 . . . 雨止め鍔、
10 , 11 . . . 回り線、10a , 11a . . .
回り線部分、12 , 16 . . . 蝶座、13 . . .
堰、14 , 18 . . . 蝶番据え付け部、15 . . .
・嵌め合い溝。

实用新案登録出願人

(422)日本電信電話公社
株式会社白山製作所

代 理 人

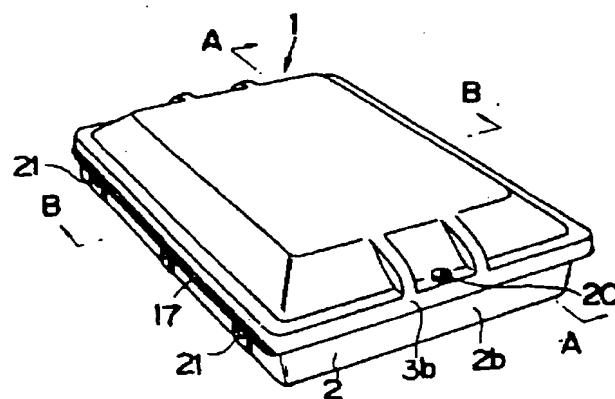
弁理士 中 煙 孝



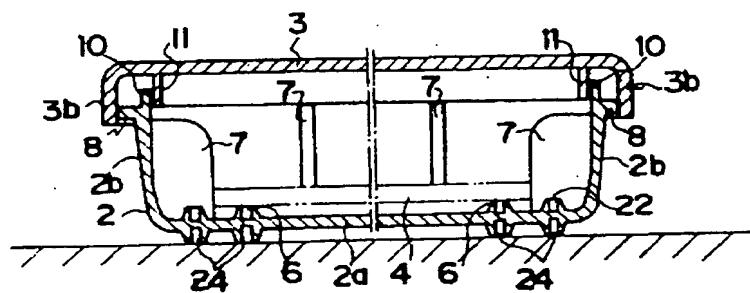
(13)

公開実用 昭和 58-170882

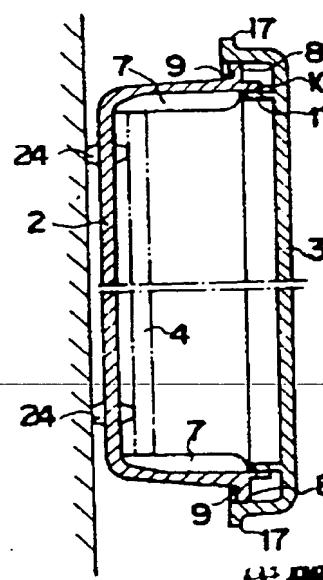
第 1 図



第 2 図



第 3 図

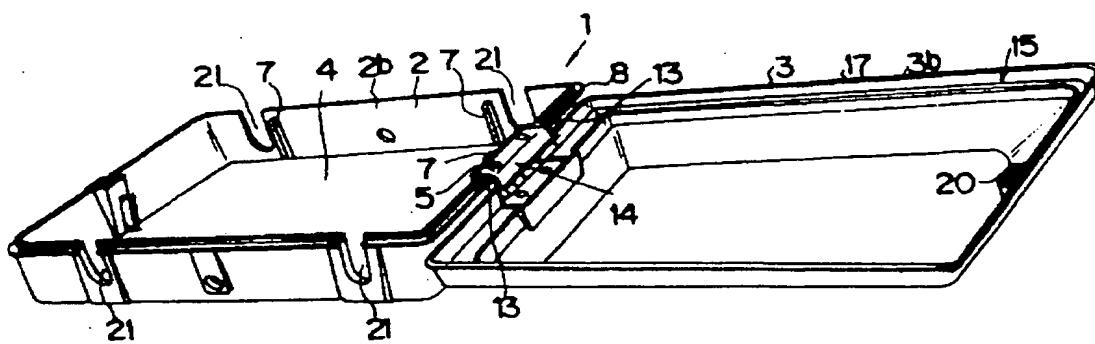


実用58-170882

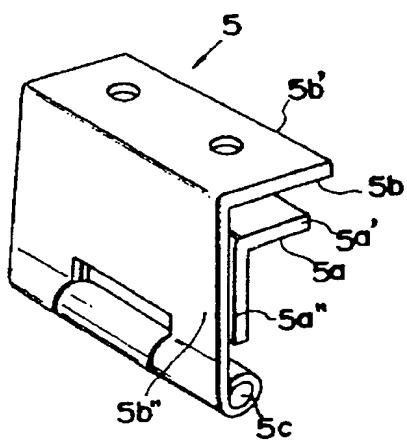
日本特許公報 中 機 標

(14)

第4図



第6図



716

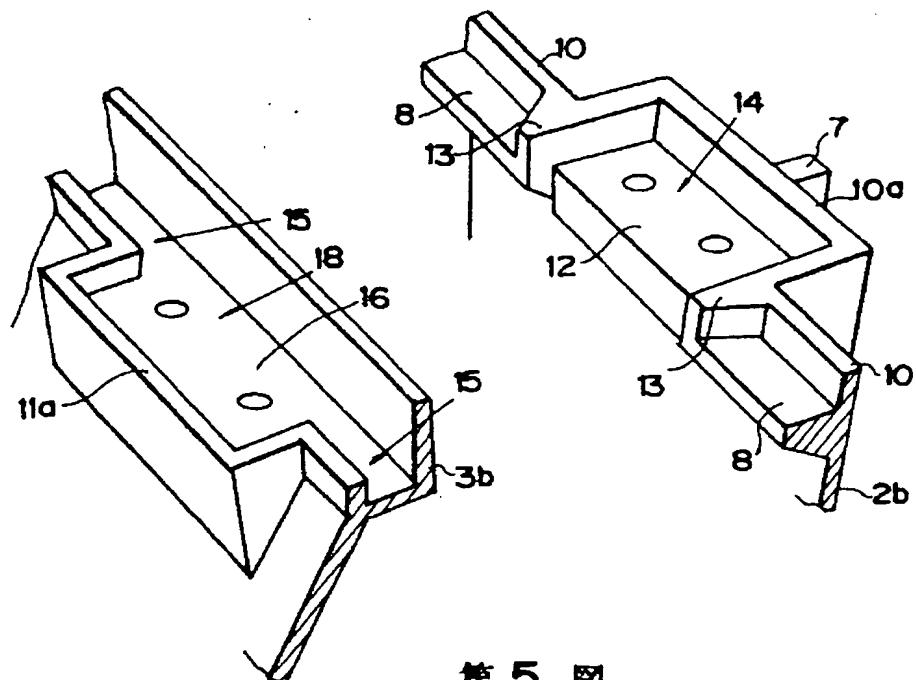
1000

代理人弁理士 中畠

公開実用 昭和 58-170882

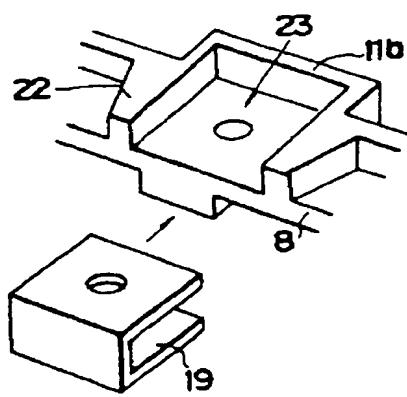
第5図

(A)

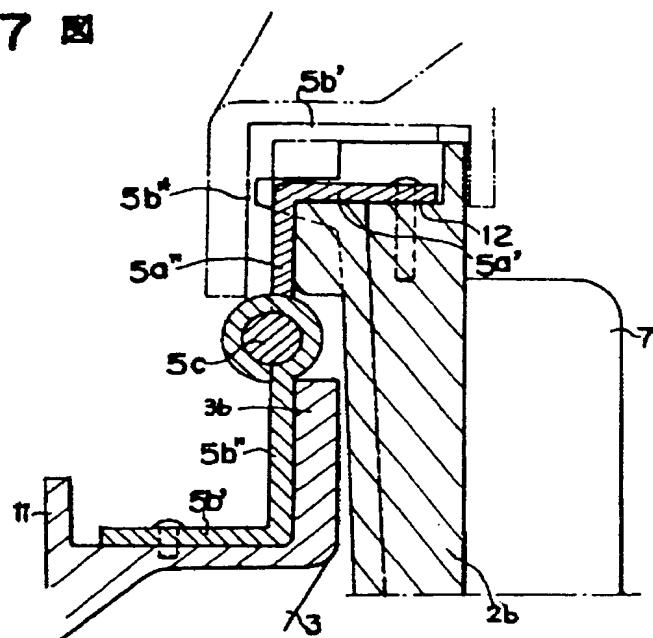


第5図

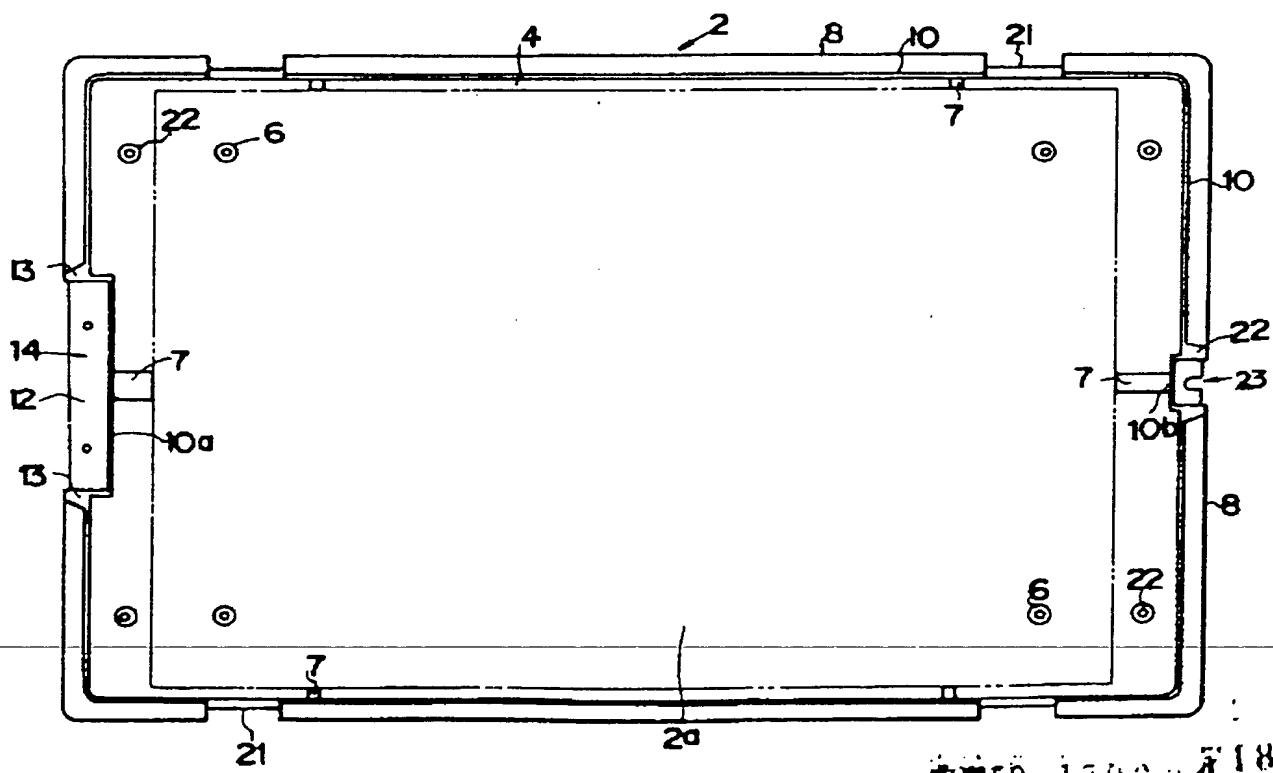
(B)



第七圖



第8圖

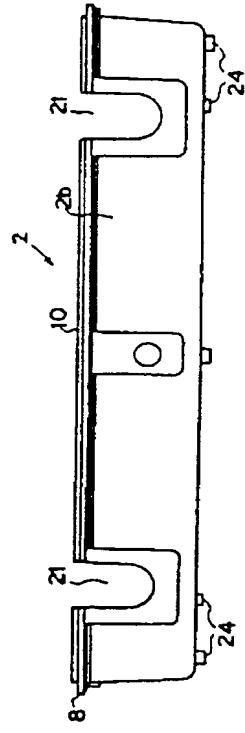


美圖58-1702-418

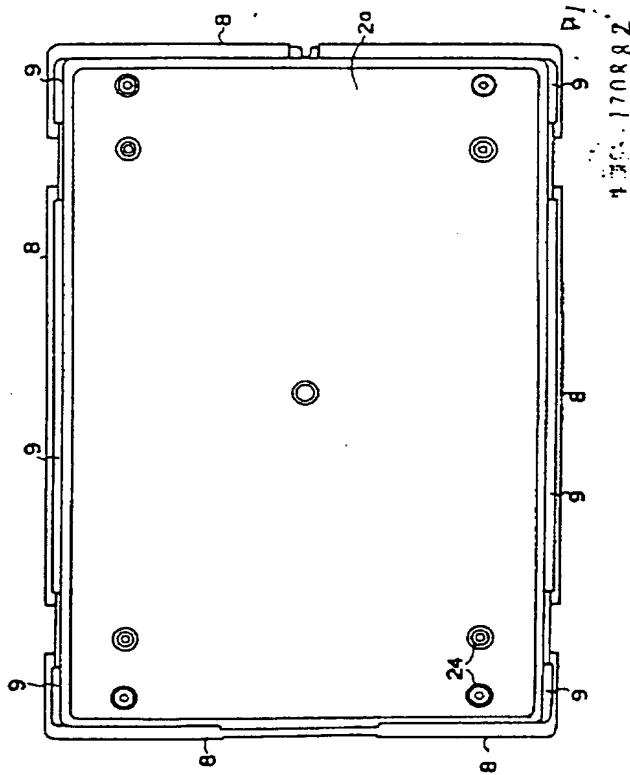
山西大同出土山仙三

公開実用 昭和58—1170882

第9図



第10図



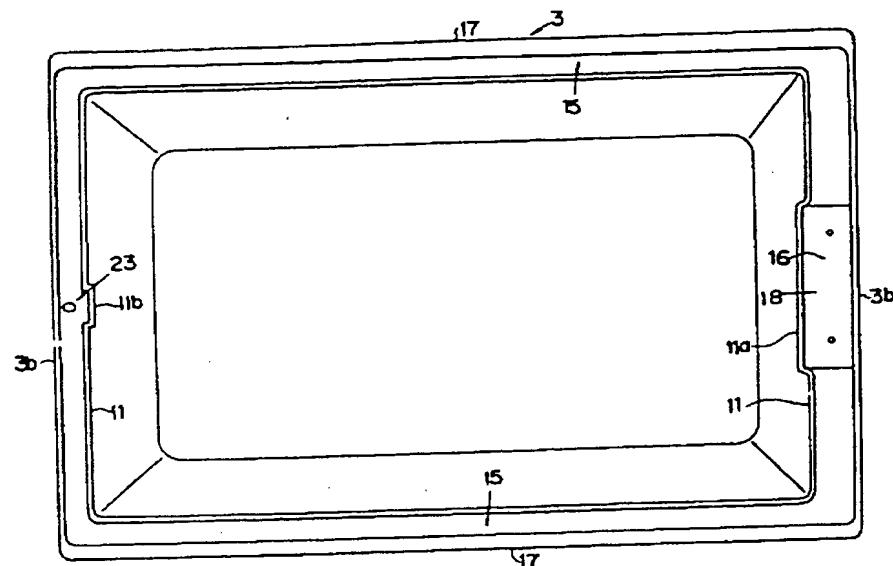
(17)

代理人弁理士 中畠 季

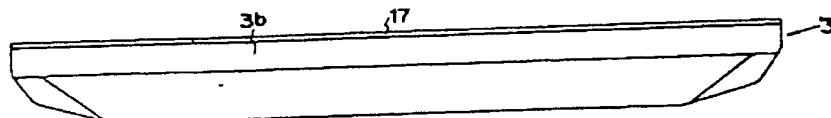
(18)

公開実用 昭和58-170882

第11図



第12図

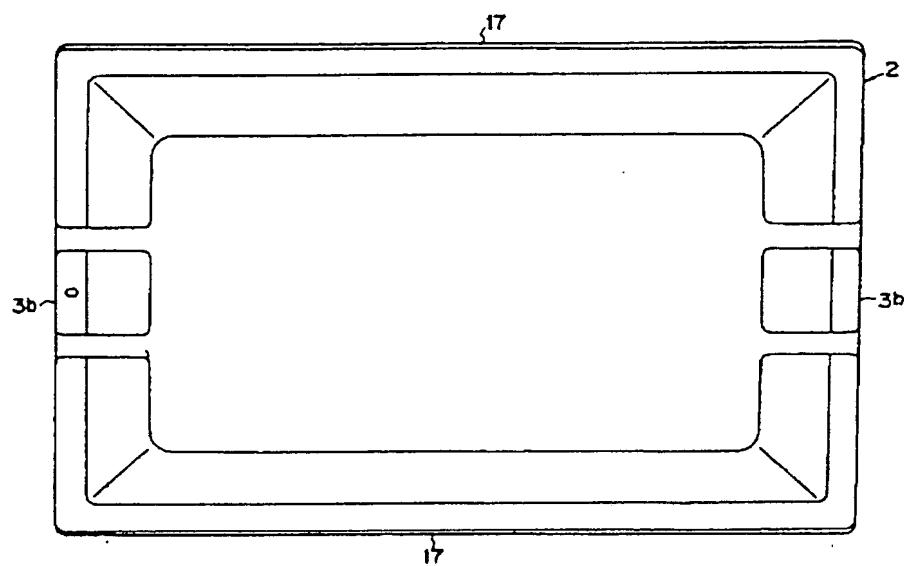


720
昭和58-170882

代理人並理士 中畠 孝

(19)

第13圖



721

代理人办理上中烟季